

ぶらっとサロン椿通信 令和4年3月号

今号の椿:玉之浦

R4.3.15 撮影



報告:有楽斎

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一昨年3月10日から自粛し**現在休業中**です。

ヤブツバキの特別な性質とは何でしょうか？ それは、一言でいうと耐寒性と多様性です。シーボルト(1796-1866)は、その著書、『日本植物誌』の中で、ヤブツバキを冷温室の最大の宝物「冬のバラ」と称賛しています。そして、さまざまな形質変化のある日本の自生地を見て、無数の変種を作り出す自由があると述べています。サカタ通信 2018/1/9 海石榴[その3] ヤブツバキ 小杉 波留夫(にすぎ はるお)コラムより抜粋しました(有楽斎)



カメリア属は、熱帯、亜熱帯の低緯度地域に多くの種が自生していますが、園芸植物の消費量が多い都市部は世界的に高緯度にあります。カメリア属を観賞植物とする場合において、ヤブツバキの耐寒性は、他のカメリア属にはない美点です。ヤブツバキは、世界最北の地に原生するカメリアなのです。

山形県と秋田県の県境にある幻想の森です。日本有数の豪雪地帯であり、深い雪の影響で杉の成長点が傷むのだと思います。その結果、真っすぐ伸びる杉がウネウネと曲がります。この辺りの最低気温は、マイナス10℃以下になることもあり、冬には、4カ月も深い雪に埋もれます。この幻想の森の下草にヤブツバキの変種である、ユキツバキ *Camellia japonica* Var. *decumbens* (カメリア ジャポニカ バラエティー テクンベンス) ツバキ科カメリア属が自生していました。



手前のはうような姿の低木がユキツバキです



長崎の五島列島の漁村に生えていたといわれる、「玉之浦」と呼ばれるヤブツバキです。日本には膨大な自生種があり、さまざまな遺伝子的多様性を持っていて、地域ごとに特徴のある品種があります。

美しいヤブツバキは、古くから観賞用に利用されました。特に戦国時代に流行した茶の湯において珍重され、日本で独自に花き園芸として発展したのです。ユキツバキなどとも交配され、関東系、関西系、肥後系などが選抜され、中には門外不出で育成されたツバキもあります。写真は、肥後椿(ヒゴツツバキ)系の品種です。江戸時代に肥後藩(熊本を中心とした地域)の大名にて育種された系統で梅蕊(バイシン)咲きという特徴があります。



グレース アルブリットン 日本のツバキは海を渡り 欧米でも育種が行われ いくつもの素晴らしい品種が作られました。アメリカで作られた品種



ドラマ・ガール アメリカで育成された系統 花の大きさは11cmもあり見事です。欧米では、花はより大きく より八重咲きに育成されました。



一方日本人は 清楚な一重咲きを好む人が多く、ヒメザンカとヤブツバキとの交配によって香りツバキという系統が育成されています



野生のヤブツバキは 北海道を除き日本中で見ることができますが 地域ごとに変化が認められます 左:岩手県大船渡市のヤブツバキ 右:出雲大社のヤブツバキ